

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2010年
冬

今年も吉田キャンパスで古代米づくりに挑戦！－第9回公開授業を開催しました－

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で9回目となります。

今年度の公開授業は平成18年度から取り組んでいるテーマ、日本のお米のルーツとされる赤米を実際につくり、土器などで調理して食べてみるという内容です。今年度も吉田キャンパスにある山口大学農学部附属農場と共に延べ3回に渡って行い、小学生1名、保護者・一般・教育学部学生など16名、総勢17名の皆様に参加していただきました。

6月20日（土）-田植え-

今年は種糲がカビにより全滅してしまったため、急遽「紅吉兆」という品種（もち米）に変更しました。このため約1ヶ月遅れのスタートとなりました。当日は農学部技術専門職員の長砂さんに代かきをしていただいた水田に田植えをしました。泥で足元がぬかるんで大変でした。

10月10日（土）-収穫-

昨年と比較して約3週間遅れとなりましたが、秋晴れの晴天の中、無事に収穫を迎えることができました。最終的に稲は長さ約80～90cmにまで成長しました。今回栽培した「紅吉兆」は品種改良されているため、昨年度まで栽培していた赤米と比較して、成熟具合に差がなく、高さがほぼ揃っていたのが印象的でした。収穫には模造した石庖丁、木庖丁、貝庖丁と猪の牙などを使って穗摘みをしました。初めは穗摘みにとまどう参加者もいましたが、すぐに慣れてきたようでした。その後残った稲を鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。

10月31日（土）-脱穀・糲すり、赤米を食べる-

午前中は箸こぎ、臼と杵による糲すり、てみとザルによる選別とともに足踏み脱穀機による脱穀や唐箕による選別を体験しました。そして、いよいよ赤米の試食です。今回は栽培した赤米がもち米ということもあり、古墳時代の甑（こしき）と甕（かめ）を模造した土器を使用し、赤米を蒸すことに挑戦しました。空洞になっている甑の底にスノコを敷いて赤米3合を入れ、水をたっぷり入れた甕の上に甑を据えて薪で強火で焚きます。約1時間後に無事蒸し上がりました。赤米は歯ごたえがあるものの大変美味しく甘みがありました。このほか、おかげにはアユの塩焼きや、豚汁、あさりのすまし汁をつくりましたが、これらも大変美味しく大好評でした。

公開授業を終えて

今回の公開授業について、参加者からは「日頃できない様々な貴重な体験ができ、とても満足できました」「体験を通して脱穀や糲すりはとても時間と根気のいる作業であることがわかった」「古代人のお米に対する想いに少しだけ触れることができた」などの声が寄せられました。参加者の皆さんには、米作りの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができたようです。今回は種糲がカビで全滅するという大きなアクシデントがありましたが、盛況のうちに公開授業を無事終了することができました。館員一同心より御礼申し上げます。

詳細は未定ですが、来年度も埋蔵文化財資料館では公開授業を開催する予定です。どうぞご期待ください！

(田畑直彦)



田植え



糲すりと選別



赤米の出穂状況（9月7日）

穂摘み



長光寺山古墳採集 鶴形埴輪

寅年ですが…

新年あけましておめでとうございます！ 本年も山口大学および埋蔵文化財資料館をご覗く程、よろしくお願いします。

さて、今年は寅年ということで、当館が所蔵している寅にまつわる資料を紹介…と思ったのですが、残念ながらそのような資料を見つけ出すことは出来ませんでした。ごめんなさい。その代わりに？ 今回は「干支」つながりで酉（とり）に関連する当館の貴重資料を紹介。

山口県で唯一の「鶴形埴輪」

下の写真をご覧下さい。この精巧で且つ愛嬌のある粘土づくりの鶴の頭は、今からおよそ 20 年前、山口県山陽小野田市に所在する長光寺山（ちょうこうじやま）古墳で採集されたものです。

長光寺山古墳は、山陽小野田市の北部、厚狭（あさ）盆地西南部の丘陵上（標高約 80m）に位置する全長約 58m の前方後円墳です。古墳の発見は古く、明治 14 年（1881）に地元住人によって後円部墳頂から三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）や鍬形石（くわがたいし）、大量の鉄製品などが掘り出されました。その後、昭和 46 年（1971）には古墳の復元整備のため学術的な発掘調査が実施され、後円部墳頂に 2 基の竪穴式石室が存在することが明らかとなりました。また、東側石室の周囲には円筒埴輪（えんとうはにわ）が並べられていた可能性も指摘されました。出土品の特徴から、古墳時代前期後半（4 世紀後半）に築かれた古墳と推定されています。

この鶴形埴輪も後円部墳頂で採集されていることから、石室を取り囲んでいた埴輪の一部と考えられます。山口県で確認されている唯一の鶴形埴輪であるこの資料は、当県の古墳時代研究に欠かせないものとなっています。

（横山成己）



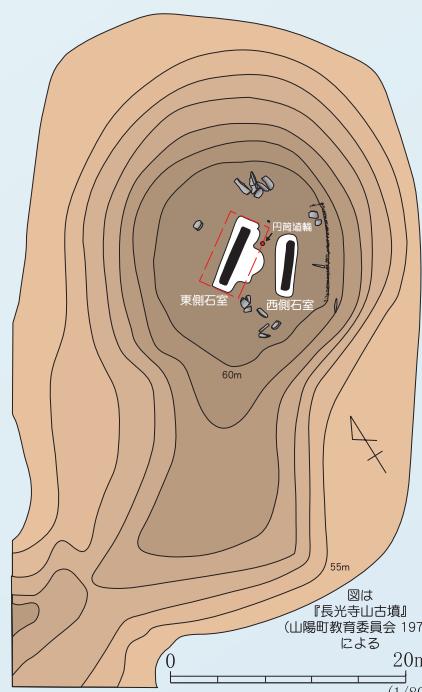
長光寺山古墳採集 鶴形埴輪（正面）



（側面）



長光寺山古墳案内図



長光寺山古墳 墳丘測量図



遺跡発掘Q & A Vol. 1

皆さん、遺跡調査の現地説明会に参加されたことはありますか。一度は参加したことのある方もおられるかもしれませんね。ここでは現地説明会でよく耳にする質問に答えます。今回は、土層観察用のアゼを取り上げます。

遺跡を理解する

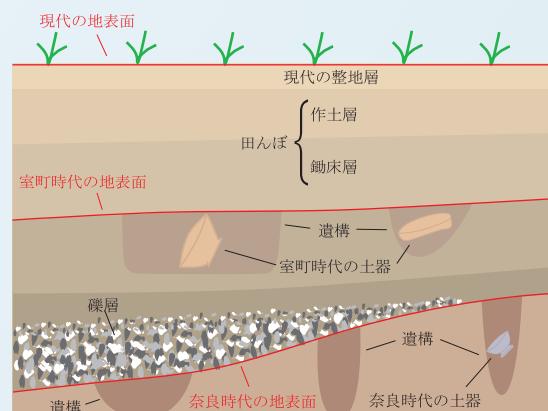
「土層観察用のアゼ」と聞いて、すぐに思い浮かべられる方は少ないかもしれませんね。左下の写真1をご覧下さい。遺跡調査地内に一見すると土壘のようなものがあります。これが土層観察用のアゼです。その役割を遺跡調査の目的と方法とを交えながら解説します。

遺跡調査は分層発掘、または平面発掘と呼ばれる方法で行われます。書いて字の如く、土層を認識しながら発掘調査を行うということです。ここで土層と遺跡との関係を説明しましょう。右下の模式図をご覧下さい。私たちが生活している大地は土層の堆積から成っており、そこに遺構（建物跡等）、遺物（土器等）など人類の活動痕跡が含まれていれば遺跡と見なすことができます。遺跡調査ではそうした土層を目指して掘り下げていきますが、地表面からどれ程の深さに位置しているのかは掘ってみなければわかりません。また遺構や遺物を含んだ土層が複数存在しているかもしれません。そうした問題を解決して遺跡調査を遂行するために分層発掘を行っているのです。手順と方法は下図を参照して下さい。理屈は簡単。堆積した土層を上から一層ずつ掘り下げていく、これだけです。こうすることで遺構や遺物を含んだ土層が複数あろうとも混同する危険を回避できます。しかし実際の作業は困難を極め、土層の境目を見抜くには相当の経験と洞察力を必要とし、土の色や土質の違いなどを総合的に考慮して判断します。特に広い調査区では、調査区に広がる全ての土層を認識するのは至難の業です。それゆえ、写真1のように調査区内に土層観察用のアゼを設けて平面と断面の両方で土層を確認しながら調査を進めていきます。そして遺跡調査の終盤には、調査地内に土壘のようにそびえ立つアゼが出来上がるという仕組みです。最後にアゼの断面、すなわち遺跡の土層の堆積状況を記録してアゼを崩します。

遺跡調査に欠かせない土層観察用のアゼの役割、ご理解いただけましたでしょうか。



写真1 土層観察用のアゼ



模式図 地層と遺跡の関係

分層発掘の様子(横から)



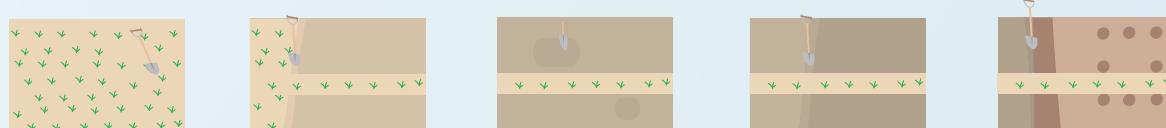
上層から、遺構や遺物の有無に気を配りながら慎重に掘り下げます。

遺構が見つかりました！
遺構を掘って調査します。

再度、掘り下げていきます。

遺構を発見しました！
建物跡の柱穴のようですね！

分層発掘の様子(上から)



(藤野好博)



山口県内の博物館紹介 vol. 19

長登銅山文化交流館

奈良の大仏の原料である銅を製錬した遺跡として名高い長登銅山跡。その日本最古の銅山跡を保存し、調査・活用するための拠点として平成21年に開館しました。歴史講座の開催、古代の銅製錬技法を復元する実験を全国に先駆けて行なうなど、地域の文化振興や交流活動の発信基地ともなっています。それでは長登銅山文化交流館の見どころを池田館長に伺ってみましょう。

(質問) 長登銅山跡の調査成果を中心に、多彩なテーマで展示コーナーが設けられていますね。池田館長「これまでの調査で、この地には奈良時代から平安時代に當まれた長門国直轄の銅製錬所が置かれていたことが明らかになっています。発掘調査で出土した大量の木簡には、製錬された銅の運搬に関するものや租庸調の納入を記録したもののはじめとして、役人の残業手当や銅山からの逃亡者数を記載したものまでありました。それらの木簡を当館では実物展示し、他にも役人が用いた文房具や日用雑器、銅の製錬に使われた道具類などを多数公開しています。また、長登銅山が立地する秋吉台の成り立ちに関する展示、江戸時代に生産されていた山口県が誇る岩絵の具である滝ノ下緑青のコーナーなども設けて、長登銅山の誕生から現在に至るまでの長登銅山への人類の関わりを表現しています。シアター設備も設けており、アニメ映画等を通して一家で楽しく学ぶこともできます。」

(質問) 開館して約9ヶ月が経ちましたが、今後の展望などをお聞かせください。

池田館長「日本人は農耕民族のためか金属には疎い気がしますが、現代を生きている我々は金属やその基である鉱物、つまりは地球資源から非常に恩恵を受けています。美祢市においても、古代から銅を製錬し、近代には石炭も掘り出し、そして現代ではセメントの原料となる石灰岩を採掘しています。色で表現するならば、古代は赤、近代には黒、現代は白を大事にしてきました。地球上に恩返しをする意味で、これからは緑を大事にしていかなければならないと思います。こうした教育の観点から、県内の児童は勿論のこと、県外の修学旅行生にも訪れてもらえるような企画を打ち出していくたいですね。」

長登銅山文化交流館は国指定史跡「長登銅山跡」の入口に設置されています。史跡の近くにある道の駅「みとう」では、石造りのミニ大仏が愛くるしい笑顔で史跡までの道を教えてくれます。奈良の大仏の故郷とも言える長登銅山跡、ここでしか見ることのできない出土品の数々を是非ご覧ください。(藤野好博)



長登銅山文化交流館外観



展示解説の模様

お問い合わせ先

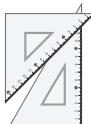
長登銅山文化交流館

〒754-0213

山口県美祢市美東町長登 610 番

TEL 08396-2-0055

休館日：月曜日・年末年始(12/28～1/4)



2009年秋 埋蔵文化財資料館の活動

- | | |
|------------|---|
| 9月 | 9/4 (金) 吉田構内本部カーポート設置工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
9/14 (月)・15 (火)
吉田構内新男子寮新営工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
9/17 (木)・18 (金)
吉田構内石彫実習場整備工事(吉田遺跡)で立会調査を実施 |
| 10月 | 10/10 (土) 第9回公開授業『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう4』
第2回授業(収穫)を開催
10/13 (月) 常盤構内ガス管改修工事で確認調査を実施
10/13 (月)～15 (木)・29 (木)
吉田構内動物医療センター改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
10/31 (土) 第9回公開授業『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう4』
第3回授業(脱穀・古代米を食す)を開催 |
| 11月 | 11/9 (月) 第28回企画展『土の中からコンニチワ～山口大学発掘調査速報展2009～』
オープン(於：埋蔵文化財資料館展示室 2010年1月29日まで)
11/9 (月) 吉田構内東アジア研究棟新営工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
吉田構内ガス管改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
11/12 (木) 吉田構内ガス管改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
11/13 (金) 第10回大学情報機構埋蔵文化財特別展『ホンモノはどっち？』
オープン(於：総合図書館1階雑誌閲覧コーナー 2010年2月29日まで)
11/14 (土) 常盤祭(山口大学工学部大学祭)にてイベント『謎のカタチ～勾玉づくりに挑戦！～』を開催
11/18 (水)～27 (金)
吉田構内附属農場実験水田暗渠排水工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
11/28 (土) 姫山祭(山口大学吉田キャンパス大学祭)にてイベント『弥生の王国～山口県の百餘国を探る～』を開催 |



公開授業第2回授業「古代米收穫」を開催



姫山祭イベントの模様

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信

第19号

『てらこや埋文』2010 冬

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryoukan.home/

発行年月日 2010. 1. 15.